

1. 団体において取り組んでいるスポーツ振興に向けた取組状況・成果

- (1) 中学校におけるスポーツ・体育活動の充実・発展及び活性化に努めるとともに、運動部活動の指導に努め、たくましくしなやかで人間性豊かな中学生の育成に努めている。
- (2) 少子化が進行する中、持続可能性を考えた運動部活動の運営、多様な教育団体等との連携の在り方、本連盟の発信力の強化など、多面的な視点での研究及び検討を深めた。
- (3) 部活動指導員については、令和2年度の部活動指導員数は調査の結果、11月段階で5858人であり、昨年度11月の人数3625人を大きく上回る結果である。大きな成果といえる。ただ、採用は増えているが、その人数は、都市部と地方でのばらつきがある。令和3年度についてもこれまでの採用数を上回るようお願いしたい。今後、引率はもちろんのこと、諸大会の審判・競技役員や中体連の運営等にどのように関わってもらうべきか、中体連の願い・目標・理念を理解してもらう取組がさらに必要である。
- (4) 2018年度全国中学校体育大会中国大会の調査結果。8競技約700名の競技役員の大会評価より。「本大会は日本のスポーツ振興に貢献していると思う96.3%」「本大会は地域のスポーツ振興に貢献していると思う91.0%」

(東海大学体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科)

2. 現状団体において抱えている課題

- (1) 少子化 【3学年人数 H10 4391千人 → R13 2903千人 66.1%に減少】
- (2) 気候変動 【1.26℃上昇/100年→30年で0.42℃上昇 2020・2019特に上昇傾向】
- (3) 働き方改革【残業80時間以上64.3%】
- (4) 全国中学校体育大会の在り方
 - ① 意義 【夢の大会、努力の成果、視野が広がる大会、リアルな体験】
 - ② 成果 【生きる支え、望ましい取り組み方、井の中の蛙を知る、心を育む】
 - ③ 種目数・参加数・日程等に関して
 - ④ 開催地【拠点化・ブロック分担・分散開催】
 - ⑤ 競技種目【学校で実施する部活動の競技】
 - ⑥ 大会競技方法【優勝のみに価値を置かない】
 - ・試合数・試合方法
 - ⑦ 望ましい大会規模について【ブロック大会程度の規模、最低〇割縮小】
 - ・会期 【〇日減】
 - ・選手・チーム数【〇割減】
 - ・役員数【毎年開催可能な数】
 - ・経費 【毎年開催可能な費用】
- (5) 合同部活動（チーム）について
- (6) 拠点校方式について
- (7) 総合型地域スポーツクラブとの連携について
- (8) 部活動改革（土日の部活動を地域での活動）について

3. 第3期に期待すること

- (1) 第2期の取組結果・・・運動部活動改革と地域における青少年のスポーツ環境の整備が急務としている。総合型地域スポーツクラブだけでなく、群市町村体育・スポーツ協会と自治体が一致して、運動部活動を支援していく仕組みづくりに期待したい。
- (2) 第2期の取組結果・・・引き続き、ハラスメントや暴力・体罰の防止の徹底を図っている。「持続可能な開発目標（SDGs）」の視点から、スポーツを通じてどんなことに取り組むことが可能かを提言していただきたい。